

JAPANESE SOCIETY FOR INTERNATIONAL NURSING

(JSIN)

国際看護研究会 第18回学術集会 抄録集
(第78回国際看護研究会)

途上国と遠隔教育でつなぐ国際看護協力

会 長 : 辻村 弘美 (群馬大学大学院保健学研究科)
日 時 : 2015年9月26日(土) 10:00~17:30
会 場 : 独立行政法人国際協力機構 JICA 横浜
(神奈川県横浜市中区新港2-3-1)
総 会 : 第1会場 (13:00~13:30)



国際看護研究会第18回学術集会事務局
〒371-8514 群馬県前橋市昭和町3-39-22
群馬大学大学院保健学研究科内
TEL: 027-220-8924 FAX: 027-220-8924
E-mail : kokusaikango18@gmail

ごあいさつ

国際看護研究会第 18 回学術集会の開催にあたって

国際看護研究会第 18 回学術集会

会長 辻村弘美（群馬大学大学院保健学研究科）

平素より「国際看護研究会」の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

国際看護研究会では、国際看護に関する研究を発表し知識を深め、また国際看護に関心を持つ方々との交流をはかることを目的とし毎年学術集会を開催しております。

今年度は、青年海外協力隊発足 50 周年と記念すべき年であり、JICA や青年海外協力隊の関係者などにより記念式典やシンポジウム、イベントなどが日本全国で開催されています。また、ご存知の方も多いかと存じますが、郵便局からも記念切手が発売されました。このような記念すべき年に第 18 回となる学術集会の会長を務めさせていただき誠に光栄に思っております。今年度の学会のテーマは、「途上国と遠隔教育でつなぐ国際看護活動」で、基調講演では、途上国とインターネット回線を利用した双方向式の授業を行ったので、その概要や実際の体験などをご報告いたします。

また、シンポジウムでは、「新たな人生設計ー転機をもたらした国際協力活動ー」をテーマに開催いたします。シンポジストには国際協力活動がキャリアチェンジの転機となった青年海外協力隊員や NGO ワーカー・OV をお招きし、国際協力活動とその後の進路選択をするに至った理由と現在の状況についてお話いただきます。国際協力経験の意義や現場レベルでの国際保健活動について広く振り返る機会として皆さんとディスカッションしていきたいと思っております。

一般演題は、国際看護に関する研究や活動報告で、帰国隊員や看護系の教員だけでなく学生からの発表もごさいます。今年度は、アジア、アフリカ、中東、アメリカの地域を対象とした研究や活動報告があり、グローバルな視点からの学びや多文化共生社会に貢献できる発表が期待されます。

末筆とはなりましたが、学会の準備や運営にご協力いただきました、準備委員・実行委員・査読委員の先生方、シンポジストや座長の先生方、ボランティアの学生の皆様、国際看護研究会本会の先生方、本学会の開催場所でごさいます JICA 横浜関係者などの皆様のおかげで第 18 回学術集会を開催することができました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

平成 27 年 9 月 26 日

<プログラム>

【第1会場 体育館：地階】

10:00～10:05 開会のあいさつ

10:05～10:55 基調講演 座長：森 淑江（群馬大学大学院）

途上国と遠隔教育でつなぐ国際看護協力

第18回学術集会会長 辻村 弘美（群馬大学大学院）

11:00～12:15 一般演題 第1群「アジアにおける看護Ⅰ」
座長：戸塚 規子（国際看護交流協会）

- 1 インドネシアに学ぶ地域互助型保健医療システム
ー本邦における互助の定着にむけてー
芝山 江美子（佛教大学）
- 2 モンゴルへの遠隔教育手法による看護技術指導の試み
森 淑江（群馬大学大学院）
- 3 Sharing self care in disease management among adolescents with Type 1 Diabetes Mellitus in Sri Lanka
A.M.S.Deepanie Pathirana (University of Peradeniya)
- 4 系列の国際協力機関と連携して行う国際看護実習の実際とその成果
鶴岡章子（三育学院大学）
- 5 災害特性の異なる国で生活する看護学生の災害看護に関する学習意欲の相違
ー日本と韓国を比較してー
桑野 紀子（大分県立看護科学大学）

12:15～13:00 昼食・休憩

13:00～13:30 2015年度 国際看護研究会総会（会員参加）

13:35～14:35

一般演題 第3群「アフリカ・中東における看護、その他」

座長：野田 義和（帝京科学大学）

- 11 セネガル共和国における A 保健ポストの管轄する保健小屋の地域保健員との活動
横山 詞果（群馬大学大学院）
- 12 モロッコの学校保健活動報告～青年海外協力隊活動を通して～
宇根川 杏子（青年海外協力隊 25 年度 1 次隊 モロッコ 看護師）
- 13 海外看護活動の発表の場としての写真展
山口 幸子（東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部）
- 14 看護大学生が行う TABLE FOR TWO－国際保健・地域医療研究サークル Hatch の
試み
狭川 祐実（国立看護大学校）

14:40～16:20

シンポジウム「新たな人生設計－転機をもたらした国際協力活動－」

座長：相田 華絵（グローバルリンクマネジメント）

雨宮 こずえ（国際開発機構）

シンポジスト

大森 千尋（世田谷保健所）

協力隊経験後の保健医療職へのキャリアチェンジ

東海林 美紀（写真家）

ニジェールで JOCV として過ごした 2 年間

西山 美希（特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会）

途上国での学びがもたらした転機－国際保健 NGO で働く

伊藤 亜紀（JICA 青年海外協力隊事務局進路相談カウンセラー）

国際協力分野の就職

16:20～16:25

閉会のあいさつ

【第2会場 会議室1：1階】

11:00～12:15

一般演題 第2群「アジアにおける看護Ⅱ」

座長：齋藤 恵子（埼玉県立大学）

- 6 ベトナムダナン産婦人科小児科病院における新人教育への取り組み
－JICA 草の根技術協力事業での一つの評価として－
嶋澤 恭子（神戸市看護大学）
- 7 ベトナム・ダナン産婦人科小児科病院における看護職研修生の変化
新田 和子（神戸市医療センター西市民病院）
- 8 ラオス国における産後の伝統的慣習
中島 麻紀（千葉大学大学院）
- 9 ラオス国における看護師の行動変容の結果として見られた健康教育活動
中島 麻紀（千葉大学大学院）
- 10 発展途上国タイにおける国際協力活動から学んだこと
－写真で見るウボンラチャタニ県における看護教育・医療の現状－
谷口 美智子（中京学院大学）

12:15～13:00 昼食・休憩

13:35～14:35

一般演題 第4群「アメリカにおける看護」

座長：伊藤 尚子（千葉大学大学院）

- 15 米国における看護師のユーモアに関する認識と使用について
野尻 晴華（創価大学）
- 16 看護師による非言語コミュニケーションとしての「沈黙」の定義－米国の事例より
村上 明日香（創価大学）
- 17 サンフランシスコにおける看護師らの児童虐待防止への取り組みについて
浦田 博之（創価大学）
- 18 アメリカにおける患者のレジリエンスを高める看護ケアに関する考察
高橋 友里奈（創価大学）

16:30～17:30 茶話会